

2-(6) 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

大学の基本使命

芸術を学ぶ者たちが、来るべき文明の姿を思い描き、人類危機の時代を克服するという強い意志をどう身につけるか。そしてまた、他者の痛み想像力を働かせ、多くの人々の幸せのために芸術の力を用いる姿勢をどう培うか。すなわち、良心をもって社会を変革する芸術家魂をどう育てるか。

芸術立国とは、芸術立国を担う人間の成長にほかならない。芸術文化を原動力とする文明への展望と、人類と自然への深い愛情に満ちた哲学を持った人間を輩出する。それこそが、本学の最も重要な使命である。

建学の理念

芸術と哲学によって、新しい人間観、世界観の創造を目指す。

教育目標

人類が直面する困難な課題を克服するために、「人間力」と「創造力」を鍛え、社会の変革に役立てることができる人材を育成する。

特色

京都芸術大学では、通学課程を中心に「生きる基礎力をつける」「実社会を学びの場にする」ことを機軸にした人間力教育に、また通信教育課程を中心にした「多地域・多世代の教育」に力が注がれています。これらの取り組みはすべて、文部科学省の『質の高い教育推進プログラム(教育GP)』に選定されました(平成15年度「多地域・多世代の交流による教育プログラム」、平成20年度「頭と手を動かすワークショップ型初年次教育」「リアルワークによるキャリア教育」)。また、積極的に「国際交流プログラム」にも取り組んでいます。

生きる基礎力をつける

入学したばかりの多くの1年次生が、学科横断的に編成された1チーム約40名で、「モノの見方、作り方、考え方」など現代の社会で硬くなりやすい認知の枠組みを緩めることを目的とした体験型ワークショップに参加します。その後、3～5m²の「ねぶた」のコンセプト構築からデザイン、模型制作、計画、制作に取り組むことで、個の力を集団で活かし、個人では成し得ないほどの大きな仕事をするためには何が必要なのかを学びます。また「食」や「農」などを通じた五感を育むための取り組みも、生きる基礎力習得のひとつとして行っています。

マンディプロジェクト <http://www.kyoto-art.ac.jp/art/special/monday/>

実社会を学びの場にする(社会実装プロジェクト)

各界の最前線で活躍する人に師事する機会を創出するため、映画スタジオや工房など、学内にその制作現場を設け、またインターンシップの枠組みを積極的に取り入れています。また、新商品のデザイン開発や百貨店のウィンドウディスプレイなど、産学連携のプロジェクトも専門部署を設置して年間約80件を受託、1300名以上の学生が参加しています。

社会実装プロジェクト <http://www.kyoto-art.ac.jp/art/special/realwork/>
ウルトラファクトリー <http://www.kyoto-art.ac.jp/art/special/ultra/>

多地域・多世代の教育

18歳から96歳まで、日本全国津々浦々に通信教育課程に学ぶ学生がいることから、全国的なフィールドワークを展開し、地域固有の環境を活かした実践的な授業を行っています。これは単なる地域研究にとどまらず、地域間、世代間の交流そのものを貴重な学習機会として育てているもので、地域での新しい文化共同体の形成に寄与してきました。これらの活動の成果は、通信教育課程の在学学生・卒業生を中心とした東日本大震災の支援ネットワークが形成されるなどの形で花開いています。

国際交流プログラム

京都芸術大学は、世界の17の国・地域の40校と学術交流協定を、そのうち12の国・地域の22校と学生交流協定を締結し、交換留学、合同での国際プロジェクト、海外研修ツアーなどを実施しています。

国際交流の取り組みについて <https://www.kyoto-art.ac.jp/info/cie/initiatives/>